

倉敷市民憲章 のしおり



倉敷市民憲章

私たちは、日本のふるさと瀬戸内海と母なる高梁川にはぐくまれ、古い伝統と洋々たる未来にかがやく倉敷市民の誇りをこめて

一 自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくります。

一 人間をたいせつにし、青少年には夢、老人には安らぎのあるあたたかい社会をつくります。

一 秩序を守り、平和で安全なまちをつくります。

一 働くことによるこびをもち、明るく健康な家庭をつくります。

一 教養を高め、世界と通じ、個性ある文化をつくります。

倉敷市民憲章とは

倉敷市民憲章は、「市民共通の願い」「市民生活の心のよりどころ」として、昭和47年2月1日に制定されました。

制定に当たっては、まず最初に市民の皆様から「新市にふさわしい市民憲章を制定しよう」という声が湧きあがり、それを受けて市内の各種団体から成る制定委員会が発足し、倉敷市民の英知を集めて文案が作成されました。その過程では広く文案を募集し、寄せられたご意見、ご希望を練り上げたものがこの憲章となっています。

市民憲章の制定経緯

昭和42年2月1日、旧倉敷・児島・玉島の3市が合併して新しい倉敷市が誕生しました。その後、市民の皆様から新市としての市民憲章制定を求める声の高まりを受け、合併5周年に向けて、昭和46年7月7日、第1回市民憲章・市木・市花制定委員会が開かれました。市内の各種団体、そして市と議会の合計約50人から成る方々が、専門家の意見もいただきながら、制定を進めていくこととなりました。

7月13日、市木・市花の専門委員会を開き、市のシンボルにふさわしいもの、倉敷の気候風土に適したものなどの条件を考えながら、それぞれ候補を、市木は、やまもも、さくら、くすのきの3種類に、市花は、つつじ、ふじ、はぎの3種類にしぼり、その後、広報紙を通じて市民の皆様にはガキによる投票を呼びかけました。

7月14日には、市民憲章の専門委員会を開き、新しい市民憲章のあり方について、

- 1 郷土愛に根ざしたもの
- 2 行政をも律するもの
- 3 社会教育、学校教育を通じて教育目標にし得るもの
- 4 時の流れで簡単にならないもの



市木：くすのき 市花：ふじ
(昭和46年12月1日制定)

という方向性で進めようということとなり、市民の皆様から思いを込めた文案や項目を募集し、そこから市民共通の願いを把握したうえで専門委員会が文案にまとめていくこととなりました。応募のあった251の文案の一部をご紹介しますと、郷土愛、自然愛護、美しい野山、環境整備、児童福祉、老人福祉、きまりを守る、人間関係、働く喜び、教養と文化の向上などが多くを占めていました。これをもとに専門委員会で文案にまとめるとともに、個性を表現するために「前文」を置くこと、また、各文の語尾を、当時全国的に主流だった「～しましょう」という呼びかけ型ではなく、「～します」という決意型で市民主体の憲章とすることを制定委員会で確認しました。

なお、市木・市花は、ガキ投票の結果、市木が「くすのき」、市花が「ふじ」と定まり、ひと足先に、昭和46年12月1日に告示となりました。

その後、昭和47年1月に倉敷市民憲章が、市から臨時市議会に提案され満場一致で承認。合併5周年である昭和47年2月1日に制定・告示されました。

制定後50年を経ましたが、「自然を生かし、緑と花のある」から始まり、環境、子どもの成長、健康長寿、安全、働くよろこび、教養や個性ある文化、世界との協働などを表す内容は、まさに今、世界が取り組んでいる「持続可能な社会をつくる」という思い(SDGs)を反映するものとなっており、制定当時から先見性を持ち、市民の皆様の大きな期待や思いを込めて、市の進むべき方向を示している素晴らしい市民憲章です。



市章と市歌
(昭和42年10月1日制定)



市の鳥：カワセミ
(平成15年3月24日制定)

市民憲章の顕彰

市内には市民憲章の顕彰碑などがあります。
どこにあるか見つけてみてください。
※答えは次のページです。

1



2



3



4



5



6



7

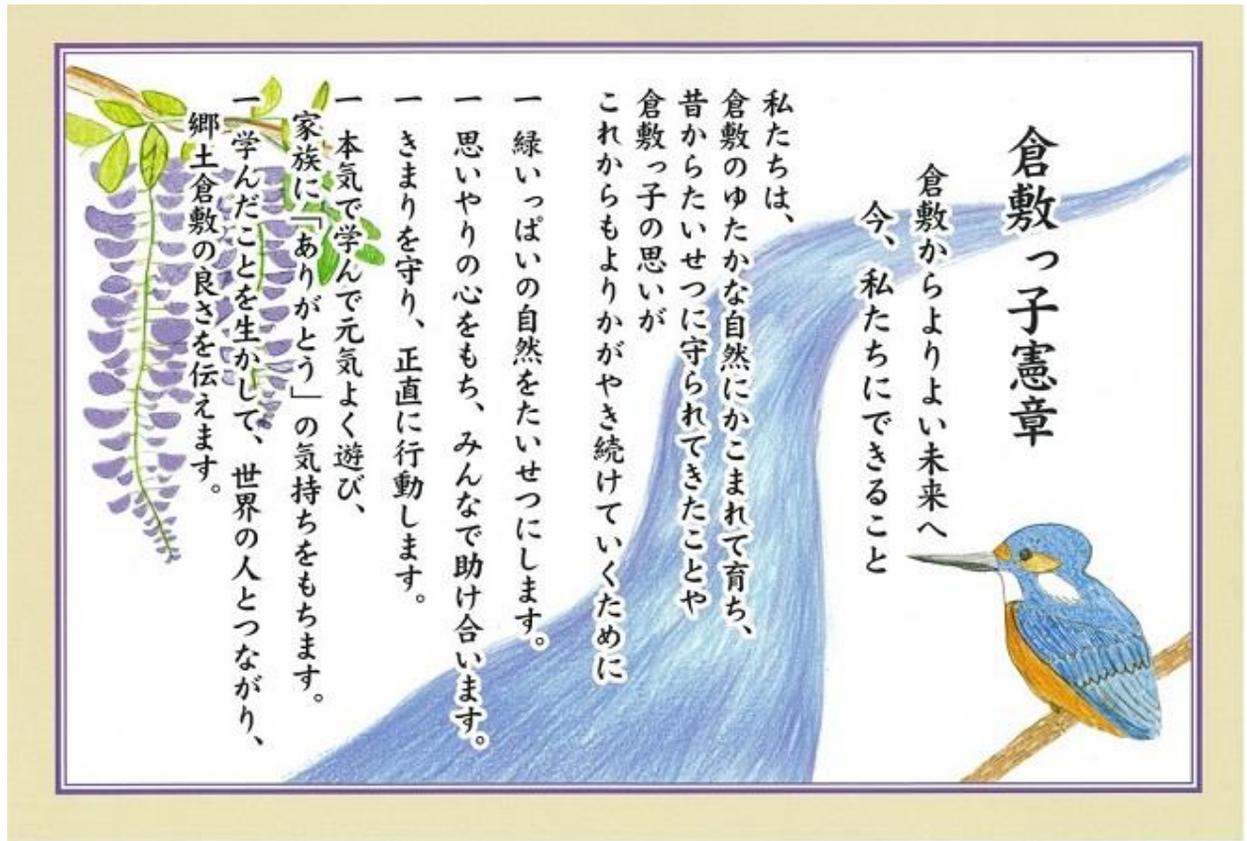


8



倉敷っ子憲章

「倉敷子どもミーティング」が平成27年7月に子ども版市民憲章『倉敷っ子憲章』を作りました。



市民憲章の推進

市民憲章の制定後、昭和47年7月22日に、市民憲章を推進するため倉敷市民憲章推進協議会が発足しました。現在49団体が加盟しており、市民憲章の周知を図り、市民協働の力で、より快適なまちをつくるため各団体が活動しています。

次ページからは、市民憲章の各項目ごとに、倉敷市民憲章推進協議会の加盟団体の活動事例を紹介しています。

本文の右側にあるSDGsのアイコンは、推進協議会が関連していると考えて活動しているSDGsの目標です。

加盟団体等は会議の前に、裏表紙にある「唱和のしかた」を参考にして唱和を行っています。皆様も、声に出して読んでみて、まちづくりについて考えるきっかけにいただければと思います。

市民憲章の顕彰の場所

前のページの答えです。

- | | | |
|-------------------|--------------------|------------------------|
| 1 倉敷市民会館前 | 2 玉島支所に掲げられている市民憲章 | 3 水島支所前 |
| 4 倉敷市役所本庁舎正面ロータリー | 5 酒津公園 | 6 児島市民交流センター味野公園（橋の公園） |
| 7 中央図書館前 | 8 水島緑地福田公園体育館前広場 | |

自然を生かし、緑と花のある きれいな環境をつくります



倉敷市環境衛生協議会

倉敷市環境衛生協議会は、健康で明るい生活環境をつくるため環境衛生改善の普及を図ることを目的としています。

広報紙「かんきょう」の発行による広報活動の充実をはじめ、廃棄物対策部会、環境美化部会、水質浄化部会、家庭ごみ減量化部会の専門対策部による調査研究部門の充実、各支部の積極的な実践活動等により一人ひとりが積極的に身近な環境改善に取り組み、「美しいまち倉敷」を目指して日々活動しています。



花の植栽，除草作業



清掃活動

倉敷の自然をまもる会

自然観察と環境保全に 取り組んでいます



倉敷の自然をまもる会と重井薬用植物園との共同主催で、年2回「草活（くさかつ）」という活動をしています。場所は倉敷市西坂の草原で、丘陵地帯の三吉鉞山跡に至る散策路の途中にあります。私たちはこの一帯を奥西坂とよんでいます。この「草活」というのは私たちの造語で、放置すれば荒れてしまう草原を整理して自然観察などに活用していこうという活動です。

2021年度の1回目の草活を6月26日に実施しましたが、コロナ禍のため参加人数に制限を設けなければならないという状況の中、総勢17名が集まりました。事前に草刈機で切り倒しておいた草をみんなで一カ所に集めるといった作業ですが、これによって草原の荒廃（灌木化）を防ぐことができ、そして夏に向けて美しい草原が再生されていくものと期待しています。この作業の合間に植物や動物、昆虫などのミニ観察会も行い、里山の自然を楽しみました。

郷内婦人会

「やすらぎと喜び」を感じる地域に

郷内は、豊かな自然に恵まれ、歴史文化（熊野神社・五流尊瀧院等）が数多く残っている地域です。郷内婦人会は、市や地区の行事で人々の心を和ませるフラワーロードや「もてなし花壇づくり」などの活動をしてきました。



現在、地域のあちこちで桜をはじめ四季折々の花が人々の目や心を癒してくれています。「倉敷美しい森」作りの時にも緑化活動に積極的に参加しました。人権学習推進事業の一環として「ふれあいの園」に四季を通じて各種団体と一緒に花を植え、子どもたちや地域の人々の目を楽しませています。

冬には、葉ボタンで「きずな」・「まけるな！まび」・「共に生きる」などの花文字で園を飾り、元気と感動を与えています。

郷内婦人会 8 支部の内、福江・串田・曾原は公園や花壇の草取りや花植え、トイレ掃除等を行っている地域が憩いの場になるよう頑張っています。種をまき、芽が出た時の喜びを、大きくなってきれいな花が咲いた時の喜びを感じています。これからも心が和む環境づくりに精進してまいります。

倉敷市身体障害者福祉協会連合会



倉敷市身体障害者福祉協会連合会の一支部、玉島身体障害者福祉協会は「NPO法人岡山海さくら」と合同で毎月第三土曜日（全国渚100選に選ばれた）沙美海岸の清掃活動を行っています。そこには多くのボランティアの方も参加しててなごやかに交流しながら身体障がい者に対する理解や親睦も図って海岸の美化活動と共に有意義な活動を行っています。

また、身体障がい者の方も自分らしく可能な範囲で行動して社会参加，社会貢献しながら大海原と大空の下，大自然の中で心のリフレッシュもでき、たいへん喜んでいきます。

倉敷地区労働者福祉協議会



倉敷地区労働者福祉協議会は、高梁川流域連盟が主催する「流域クリーンー斉行動」に毎年参加させていただき、一つのエリアをらせていただいております。

高梁川流域に住み高梁川の豊かな恵みの恩恵を受けていることから、少しでも恩返しができるならば毎年300名を超える会員とその家族、近隣の企業や企業のOBの方にも多く参加をいただいております。

高梁川とその周辺的环境保全をはじめ、地域の相互理解や連帯意識の醸成につながる取り組みになるよう活動しています。

花あふれる街玉島推進会議

花あふれる，心和む街づくりを目指して

玉島地区長尾学区では、「花あふれる街玉島推進会議」が中心となり、自分たちの住む地域をあふれる花で心和む街にしようとして新倉敷駅からくらしき作陽大学に至る県道沿いの植樹帯や長尾小学校周辺で季節の草花の植栽や環境整備に努めています。



平成14年，くらしき作陽大学が「チャイコフスキー国際コンクール」の会場に選ばれたのを機に，世界中からやってくる若い音楽家たちを日本人の温かい心で花いっぱいのもてなしをしてあげたい，それが活動の始まりでした。以来，毎月第3日曜日の活動日（午前中2時間程度）には，推進会議のメンバーをはじめ地元の小・中学生や大学生，趣旨に賛同する地元企業やボランティアの方々が長尾小学校の運動場に集い，それぞれの場所に分かれての活動で気持ちのよい汗を流しています。そして，活動後には参加者一人ひとりの心の中にも毎回きれいな花が咲いています。

花あふれる街づくりの活動は地域住民の世代を超えた交流を促進し，地域への愛着と誇りを育む場ともなっています。

児島鷺羽ライオンズクラブ



2020年に続き2回目の実施となった六口島海岸清掃例会。今回はご家族の方にも声をかけ取り組みました。

現地に着くと波に押し寄せられた多くのゴミに驚きました。プラスチック製品は劣化し、つかむとポロポロ崩れ、緩衝材としての発砲スチロールもビーズのようにばらばらになり、回収作業がとても困難でした。



プラスチック、発砲スチロールゴミがいかに環境破壊につながっているのか実感しました。

最も多かったゴミは、ペットボトル、発砲スチロール、菓子類の袋、釣りの浮き、割れた瓶でした。回収物は30ℓゴミ袋93袋にもなり軽トラック2台分でした。

海水浴に来られた方に『ありがとうございます。』と声を掛けられ疲れも飛びましたが、海岸清掃はクラブとして継続事業の一つにし、今後もメンバー、地域の皆様へと輪を広げ取り組んでいきたいと思ひます。

倉敷市花の銀行



倉敷市花の銀行は、昭和63年4月1日に設立され、現在は43の個人・団体により花の栽培を通じ、市域の花いっぱい運動の推進を図り、明るく住みよい地域づくりに寄与することを目的として活動しています。

具体的な活動内容としましては、倉敷市花とみどりの推進会議で年2回配布される種子や球根を地域の方々にお配りするとともに、毎年、10月に開催される「くらしき都市緑化フェア」では、クイズラリーのブースを担当し、市内の緑化推進を図るための活動を積極的に行っています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、活動が制約されることもありますが、市民憲章の「自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくります」の理念を実践すべく、引き続き活動に励んでいきたいと考えています。

人間を大切にし、青少年には夢、老人には安らぎのあるあたたかい社会をつくります



青少年を育てる会

「地域ぐるみで子どもを育てよう」

青少年を育てる会は、昭和52年に青少年の健全育成を図ることを目的として設立された地域組織です。現在は市内26中学校区ごとに組織されており、会員はみな、「青少年を地域でともに育てる」という共通目的のもとに活動しています。

会では、地域らしさを生かした取組が盛んに行われています。美しい海を守るため地域で団結して清掃活動を行ったり、学校と連携して生活の知恵を伝承する体験学習会を開催したり、子ども達の安心と安全のために学区をパトロールしたり、その形態は、中学校区によって様々です。年に2回は全中学校区会員を対象に青少年健全育成講演会を実施し、指導者としての資質向上にも取り組んでいます。

これからも学校や家庭、関係機関と力を合わせて、子ども達が夢をもって成長できるあたたかい地域づくりに励んでいきます。

社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会

通いの場ガイドブック第二版 「毎日がかようび（通う日）」の作成

「住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らしたい」誰もが願う、その思いの実現に「地域の居場所」が大きな役割を果たします。「サロン」、「カフェ」、「通いの場」呼び方は様々ですが、住民同士が気軽に集い、元気や情報を分け合える場所を倉敷市では「通いの場」と呼んでいます。

「通いの場」での日々の交流で、「人とのつながりが続くこと（社会参加）」、「自分の役割や生きがいを得ること（介護予防）」、「つながりから生まれるお互いさまで支え合うこと（生活支援）」が「自分も地域も元気なまち」には不可欠です。



一人ひとりの毎日に、「こころ」と「情報」と「暮らし」が通い続ける「かようび（通う日）」となるためのヒント集として、このたび通いの場ガイドブック第二版「毎日がかようび」を作成し、地域活動の推進を図っています。

※くらしき社協だより『ほっと社協！Vol.8 4』引用

倉敷真備ライオンズクラブ

真備町復興支援

一人でも多くの方が笑顔を取り戻すために復興支援事業を行います



「井原線橋脚に絵を描こう」
青少年健全育成（子どもたちへの復興支援）



真備町まちづくり推進協議会へ支援贈呈

平成30年豪雨災害により真備町は甚大な被害を受けました。浸水した家屋は5,861棟（そのうち全壊が4,645棟）でした。水害から3年が経ち、家々の明かりは増え、元の田園の町の姿を取り戻しつつあります。

しかしながら、昨今の各地での自然災害の猛威から、不安を抱いている人も多い現状の中、復興と今後の災害に強いまちづくりのために、私たち倉敷真備ライオンズクラブは復興支援活動を続けていきます。

倉敷市PTA連合会

倉敷市PTA連合会は、各学校園PTAの力になりたいと考え、学校環境を整えるため、教育委員会に働きかけを行い、PTA会員に学びの機会を提供しています。具体的な活動としては、例えば教育委員会との懇談会では保護者の思いを伝えたり、学校教育について学んだり、お互いに理解しあいながら、子どもたちのより良い教育環境を目指して活動しています。



また、子どもたちのための倉敷市PTA連合会児童生徒絵画展やPTA役員のためのPTA新聞コンクール、PTAの会長・副会長などを長年されてきた方への表彰など、活動の功績をたたえ表彰することによってそれぞれの頑張りを応援しています。その他にもPTA会長会を開き、各学校園で情報交換したり、課題を共有し解決方法を探ったりすることでPTA会長を応援しています。



倉敷市子ども会連合会

子ども達の夢と思考力UPを願って

新倉敷市となって発足、創立された倉敷市子ども会連合会は、市内63小学校及び1支援学校からなる集合体青少年団体です。平成元年から平成10年頃までが一番にぎやかで子ども会会員数も多く、活気ある団体でした。



子ども達の数の減少と各小学校への放課後児童クラブ、学童クラブが発足し始めたことに伴って、子ども会の会員数も年々減少してきました。会員数減少の要因は他にも色々あると思いますが、保護者の皆様の多様化、各種団体クラブの増加等が要因の一つではないかとも考えられます。

それでも子ども達を地域の宝として育てようと現役役員の皆さん及びOBの方々の力をお借りしながら、行政からの応援もいただき現在にいたっています。

子ども会の復活を願っておりますので、ご協力を宜しく願いたします。

児島東ロータリークラブ

児島地区青少年ソフトテニス大会を開催



児島東ロータリークラブでは、青少年の健全な育成を目的として、毎年12月に児島地区の小学生、中学生を対象にしたソフトテニス大会を開催しています。

2020年は、コロナ禍のため開催が危ぶまれましたがクラブメンバー、大会関係者、参加する子どもたち全員に検温等万全の対策を講じて無事開催することが出来ました。

毎年多数の参加申込があり、小学生の部、中学生女子の部、中学生男子の部のペアに分かれそれぞれトーナメント方式で試合をして優勝者を決めます。優勝ペアには児島東ロータリークラブからトロフィ、賞状、優勝賞品を贈ります。今年も昨年同様コロナ禍にありますが、開催できることを願っています。

一般社団法人 児島青年会議所



青少年の健全育成に携わることは、青年会議所メンバーのみならずその地に暮らす大人たちの大きな役割の一つであります。行政や教育機関、各種団体とパートナーシップを大切にしながら、主体は子供たちにあるという視点を持ち、「児島の未来を担う子供たち」が未来に可能性を感じ、大きな夢を描けるような導きを施します。

近年では、地域防災の重要性を伝える「こども防災キャンプ」、コロナ禍でものびのびと遊べる「段ボールすべり台の寄贈」等の今だからこそできる運動をしようを目標に活動しています。

一般社団法人 玉島青年会議所

人間交流広場DVD



玉島青年会議所ではメンバーをはじめ、地域の人々や警察官・消防士などに講師の依頼をして、玉島地区の中学校に訪問して、仕事についての心構えや夢についてお話をしています。

毎年開催される「倉敷チャレンジワーク14」は新型コロナウイルスの影響で2021年は中止となりました。本来であれば、14歳になる中学2年生が職場を体験し、仕事にチャレンジすることを通して、実社会の温かさや厳しさ、働くことの尊さを実感してほしいという願いが込められています。

中学校への訪問が難しい状況になりましたので、Web等テレワークを活用し、外部のプロフェッショナルな方々へ講師をお願いし、ビデオレターに出演してもらいDVDとして各学校に配りました。

倉敷市老人クラブ連合会

「きらり輝く！シニアとして」

全国的に少子高齢化が進み、ひとり暮らしの高齢者世帯が増加してきています。このような状況において、身近な地域の中で、高齢者同士がつながりあって、お互い支え合うことが今後ますます重要になってきます。

倉敷市老人クラブ連合会には、現在333クラブ、約1万5千人の会員が所属し、「健康・友愛・奉仕」の三大目標を基本活動とし、長寿の喜びを共に実感できる人間関係を築くとともに、会員一人ひとりが持つ知識や経験を活かして、「地域社会の担い手」として、様々な活動を行っています。



全市的な行事として、グラウンド・ゴルフ大会、ニュースポーツ体験会などの健康づくり事業、講演会や落語鑑賞会などの文化事業や各種研修会などを開催しています。

また、各地域では、その特性に合わせた趣味やスポーツ、旅行、多世代との交流事業、社会貢献活動、友愛活動などを通して毎日を楽しみ過ごしています。

会員外の方が、一般参加できるものも多くありますので、あなたもご自身の生きがいくくりや健康づくりの活動に気軽に参加してみませんか。



倉敷市民生委員児童委員協議会

民生委員・児童委員とは、厚生労働大臣から委嘱され、社会奉仕の精神をもって、地域における社会福祉の増進に努める民間の奉仕者です。倉敷市民生委員児童委員協議会は、定数790名の内、担当地域を持つ民生委員・児童委員692名、児童福祉を専門に担当する主任児童委員98名で構成されています。倉敷市では、市内を44の区域に分けて、単位民生委員児童委員協議会を設置し、高齢者や児童の見守りなどを通じて地域の皆様と福祉をつなぐパイプ役として、地域福祉の増進に貢献しております。



活動の一つとして、小学校での朝のあいさつ運動や高齢者たちとのサロン活動などを定期的に行っている地域もあります。このような活動を通して、地域の皆様が安心して暮らせるよう地域のよき相談相手として活動を続けています。



倉敷ロータリークラブ



水島工業高等学校インターアクトクラブでは、ロータリークラブのネットワークを活用して、県内や他県の高校生との交流や学習会に参加し、ボランティアについての基礎知識を学んだり、情報交換をしたりしています。

私たちロータリークラブは、さまざまな職業をもつ人々や地域のリーダーたちがそれぞれの職業の知識や考え方を生かして社会奉仕活動や人道的活動に取り組んでいる団体です。

倉敷ロータリークラブでは、青少年プログラムの一環として、水島工業高等学校インターアクトクラブを設立し、その活動を支援しています。



さらに、学んだ知識を活かして、地域での清掃奉仕・老人介護施設の訪問など様々なボランティア活動を行っています。

校内での文化祭バザーではロータリークラブ会員からも品物の提供を受け、その売上金で、昭和57年から毎年、倉敷市教育委員会に車いすを寄贈しています。



TOPICS

第1回の市民憲章運動推進全国大会が倉敷市で開催されています。

第1回

昭和41年（1966年）旧倉敷市で開催。

テーマ：明るい市民生活のしるべとして、市民憲章を広くすすめてゆくにはどうしたらよいだろうか

第31回

平成8年（1996年）開催。

テーマ：「住んでよかった、住みつづけたいまち」を目指して

第42回

平成19年（2007年）開催。

テーマ：いま、何が大切か！～人間にとって、都市にとって～



倉敷市交通安全対策協議会

「思いやり ゆとりは無事故につづく道」



倉敷市交通安全対策協議会では事業者団体やボランティア団体、関係行政機関など、多くの関係者の協力のもと、交通安全に関する様々な啓発活動を行っています。

市民憲章の理念にもある「平和で安全なまち」を実現するためには、交通事故の根絶がとても大切な要素だと考えています。交通事故の原因は多岐に渡るため交通事故の根絶は簡単な事ではありませんが、倉敷市交通安全対策協議会は多くの関係団体で構成されていますので、各団体の力を借りながら倉敷市が安全なまちになるように活動を継続していきたいと思えます。

倉敷市交通安全母の会連絡協議会

「交通安全は家庭から」

倉敷市交通安全母の会連絡協議会は昭和43年の結成以来、「交通安全は家庭から」を合言葉にして、家庭から交通事故犠牲者や交通違反者を出さないように日ごろから注意するとともに、地域の交通安全活動にも積極的に参加してきました。



交通事故が起きてしまうと被害者はもちろんのこと、加害者や家族などの周りの人もとても苦しむこととなります。そのような悲惨な事故を一件でも減らして、倉敷市が「平和で安全なまち」になるよう、今後も、家庭から地域へ、そして倉敷市全体へと交通安全の取り組みを広げていきたいと思っています。

倉敷警察署管内防犯連合会



倉敷警察署管内防犯連合会は、管内に所在する企業や官公庁等と連携し、犯罪のない安全・安心なまちづくりに向けた様々な取組を行ってきました。

当会は、管内に所在する岡山県立倉敷商業高校書道部と協働して「安全・安心なまちづくり」に関する揮毫（きごう）をし、倉敷警察署のロビーに書を展示したところ、新聞紙面にも取り上げられる等の大きな反響を得た上、来庁者の方々の目に触れる活動を実施することができました。

今後も倉敷警察署管内の平和で安全なまちを目指して、関係各所と連携を図りながら、取組に邁進していきます。

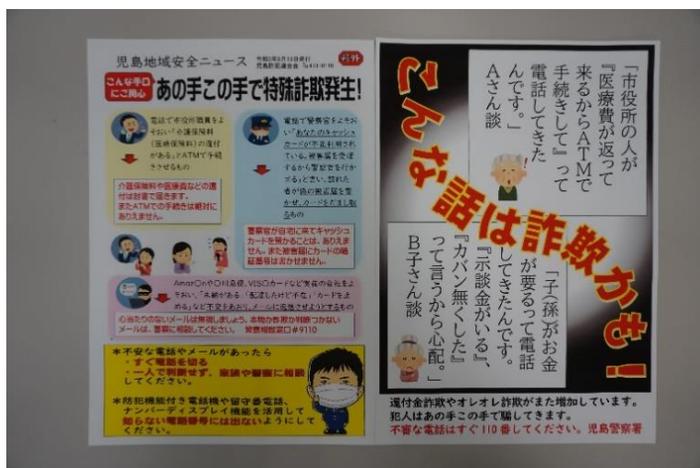
児島警察署防犯連合会



児島警察署防犯連合会では、犯罪や災害のない明るい社会の実現を目的として、管内の自主パトロール隊や事業者団体などの各防犯団体と協力し、各種防犯啓発活動を推進しています。

管内の犯罪発生状況などを掲載した「地域安全ニュース」を作成し、タイムリーな情報発信を行ったり、また、オリジナルの防犯グッズを作成し、金融機関やスーパーマーケット等において市民の方々へ配布するなど、広く防犯意識の高揚を図るための啓発活動を行っています。

これからも、各団体と協力し、平和で安全なまちづくりの一端を担えればと思います。



働くことによる喜びをもち、
明るく健康な家庭をつくります



児島商工会議所

児島商工会議所は、地域の企業の経営・改善のお手伝いをし、地域産業の振興、住みよく働きやすいまちづくりに貢献するために活動しています。

たとえば、商店街や商店を活性化させるため、「児島ジーンズストリート」を推進し、国産ジーンズ発祥の地「児島」のPRと商店街のにぎわい再生を目指す事業を行っています。



また、ジーンズミュージアム&ヴィレッジなど「産業観光」に取り組む企業、「ものづくり」にこだわる企業等をエリア毎に発信し、回遊する仕組みづくりに取り組んでおり、児島の産業や観光を再発見してもらい地域の活性化に繋がっています。「倉敷・児島産業観光ツアー」や「児島フェス#せんいさい」, 「KOJIMA産業お雛さま展」, 「児島の朝市『三白市』」などいろいろなイベントも開催・支援しています。これからも、「地域産業の振興」と「まちづくり」を両輪に、地域社会のために幅広く活動していきたいと思えます。

倉敷市商店街連合会 児島地区

三白市

三白市は、平成2年9月に、商店街周辺の来客数の減少、空き店舗、空きテナントなどの問題の解消、地域の活性化・発展を模索し、月に一度開催することで各商業施設をもう一度認識していただき、日常的に来ていただきたいという思いがありスタートしました。



三白市の由来は綿の白（繊維業）、塩の白（塩田）、魚（いかなご・下津井の魚介類）の白、昔から児島の三白と言われていました。

現在も続く事業として児島に根付いていて、継続していくことが重要だと考えており、来る人が飽きないように店舗を増やし、現在は地元を中心に県内外から、30~40店舗が出店しています。店舗は、地元特産のたこ飯、いっだこの唐揚げ、たこ天、あなご飯や牛串やラーメンなどの屋台メニューや、地野菜やみかんの生鮮品などを販売しており、毎回約2,000人程度の来場をいただいております。

開催当初から、駅前商店街連盟が主体となり、行政や会議所の協力を得ながらジーンズストリートの玄関口に位置したイベントとして、多くは県内外地区より大好評をいただいております。

倉敷市文化連盟



倉敷市文化連盟は、倉敷市と児島市、玉島市の旧三市合併後、文化振興を推進し、市民の文化生活の向上に寄与することを目的に設立されました。

活動分野は、文学・文芸にはじまり美術・音楽・舞踊・演劇・茶道・華道など多岐にわたっています。また、文化連盟自ら主催する行事も多数あり、民謡や吟剣詩舞道などの伝統芸能の公演から、書道展、美術展、かるた会、市民茶会、さらには市民創作オリジナルミュージカルまで、幅広く実施しており、毎年8月には、伝統芸能の次世代継承を目的としたジュニア伝統芸能祭も開催しています。

倉敷市文化連盟は本市の文化活動の中心的存在として本市の文化振興を推進しています。

倉敷市で第1回市民憲章中国ブロック研修会を開催しました。

平成27年（2015年）に、中国5県の市民憲章に関わる自治体・団体等の交流と憲章運動の機運の醸成を図るとともに、市民一人ひとりが実践できることを考える機会となることを目的として開催しています。



公益社団法人 倉敷青年会議所



倉敷青年会議所では、主にSDGsの推進、ひとづくり運動、まちづくり運動、青少年育成運動、を中心に活動を行っています。

例えば、SDGs推進については、世界共通のゴールであるSDGsについて学んでもらうため、小学校で授業を行ったり、中学校・高校でSDGsカードゲームを開催したりしており、身近な生活の中で行っている選択が世界に影響を与えていることなどを伝えています。

また、ひとづくり事業については、倉敷経済文化講座を開催し、地域の人々に多くの学びや気づきの場を提供し、「まち」の根幹である「ひと」に焦点を当て、これからの時代に求められる人としての総合的な力、人間力を磨く運動を行っています。

倉敷青年会議所は地域の一団体に留まらず、世界に通じている団体であり、地域から世界へ発信できる、多くの可能性を秘めた団体です。これからも、わがまち「倉敷」のために、いろいろな活動を通して、頑張っていきたいと思えます。



児島ロータリークラブ



児島ロータリークラブでは、毎月開催する例会において、講師を招き勉強会を行います。今年度も倉敷市の行政に携わる方、企業経営者、商工会議所、青年会議所の方々を招き、情報交換等を行いました。その中において、それぞれが取り組むべき課題、将来あるべき姿等をお聞きしながら私どもの活動の参考とさせていただきました。

また、2021年度は倉敷市立短期大学への図書の寄贈を行う計画です。これは、会員が文庫、専門書等様々な分野の図書を持ち寄り、同短期大学に寄贈するもので、3年に1度くらい行っています。先方と連絡をとりながら近々寄贈する予定です。

私どもは、今年度もコロナ禍の中、これからも地域社会に対し、工夫しながら、様々な機会を通じ健全な奉仕活動を行うことにより、みんなの人生を豊かにして参りたいと思えます。

『倉敷市民憲章』 唱和のしかた

司会者 ただ今より、倉敷市民憲章の唱和を行います。

この市民憲章は、「市民共通の願い」「市民生活の心のよりどころ」として、倉敷市民の英知を集め、昭和47年（1972年）2月1日に制定されました。

今、世界が取り組んでいる「持続可能な社会をつくる」という思いが、制定当時から込められ、市の進むべき方向を示している、素晴らしい市民憲章です。

それでは、皆様ご起立願います。

（なお、お体に差しさわりのある方は、着席のままをお願いします。）

代表者 まず、私が市民憲章の前文を読み上げます。その後、「ひとつ」と発声しますので、皆様には続けて本文の唱和をお願いいたします。

それでは、よろしくをお願いいたします。

くらしきしみんけんしょう
倉敷市民憲章

わたくし にほん せとないかい はは たかはしがわ

私 たちは、日本のふるさと瀬戸内海と母なる高梁川にはぐくまれ、
ふる でんとう ようよう みらい くらしきしみん ほこ
古い伝統と洋々たる未来にかがやく倉敷市民の誇りをこめて

ひとつ

しぜん い みどり はな かんきょう

参加者 自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくります。

代表者 ひとつ

にんげん せいしょうねん ゆめ ろうじん やす

参加者 人間をたいせつにし、青少年には夢、老人には安らぎのある

あたたかい社会をつくります。

代表者 ひとつ

ちつじょ まも へいわ あんぜん

参加者 秩序を守り、平和で安全なまちをつくります。

代表者 ひとつ

はたら あか けんこう かてい

参加者 働くことによるこびをもち、明るく健康な家庭をつくります。

代表者 ひとつ

きょうよう たか せかい つう こせい ぶんか

参加者 教養を高め、世界と通じ、個性ある文化をつくります。

司会者 ご唱和、ありがとうございました。